

## 船舶事故調査報告書

平成22年7月8日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山 本 哲 也

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成21年10月25日（日） 02時45分ごろ
発生場所	和歌山県印南町 <sup>いなみ</sup> 印南港横島防波堤灯台から真方位287° 1.4海里付近 （概位 北緯33° 49.0′ 東経135° 11.2′）
事故調査の経過	平成21年10月26日、本事故の調査を担当する主管調査官（神戸事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	遊漁船 <sup>よしりょう</sup> 芳 漁 丸、5.9トン 252-14885和歌山、個人所有 14.80m×3.20m×1.13m、FRP ディーゼル機関、323.62kW、昭和63年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 71歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和58年7月20日 免許証交付日 平成19年10月3日 （平成25年7月19日まで有効）
死傷者等	軽傷 3人（船長及び釣り客2人）
損傷	船底全般にき裂及び破口
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客4人を乗せ、平成21年10月25日02時10分ごろ、和歌山県田辺湾から印南漁港に向け帰航を開始した。船長は、操舵室左舷側のいすに腰を掛けて操船に当たり、約18ノットの速力で、手動操舵により北西進中、翌日の遊漁客への対応や燃料の補給などについて考えて、操船に意識を集中していなかったため、予定変針場所に変針せず北西進を続けた。船長は、行き過ぎたことに気が付いて右舵をとったが、平成21年10月25日02時45分ごろ、印南漁港西側の浅瀬に乗り揚げた。 乗揚げ後、船長は、携帯電話で親族に連絡し、釣り客から消防本部に連絡がなされた。 本船は、僚船により印南漁港まで <sup>い</sup> 航されたのち、廃船となった。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の末期 波浪 なし
その他の事項	船長の海上経験は約45年であった。 船長は、平成20年6月10日に遊漁船業務主任者の講習を受講し、遊漁船業の適正化に関する法律の施行に伴い、平成20年8月12日付けで遊漁船業者の登録を行い、本事故当時、本船には船長兼遊漁船業務主任者

	<p>として乗船していた。</p> <p>船長及び釣り客4人は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>燃料油200リットルが流失したが、被害はなかった。</p> <p>船長は、レーダーを休止し、GPSプロッターは使用していたが画面を見ていなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、田辺湾から印南漁港に向けて帰航中、予定変針場所を通過して北西進を続け、印南漁港西側の浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>船長は、翌日の遊漁客への対応や燃料の補給などについて考えて、操船に意識を集中していなかった可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が田辺湾から印南漁港に向けて帰航中、船長が、予定変針場所を通過して北西進を続けたため、印南漁港西側の浅瀬に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p> <p>船長が予定変針場所を通過して北西進を続けたのは、翌日の遊漁客への対応や燃料の補給などについて考えて、操船に意識を集中していなかったことによる可能性があると考えられる。</p>	